

**ロシアで北海道をPR！ 観光セミナー (2018/11/27)**[Tweet](#)

文部科学省による大学の世界展開力強化事業として、TTT(タクミ・トラベル・ツアー)アブロードアカデミー(高橋匠美代表)が、ロシア・サンクトペテルブルグ市で観光セミナーを初開催する。

高橋代表をはじめ、小樽商科大学グローバル戦略推進センター学術研究員・高野宏康氏、はこだて未来大学メタ学習センター准教授・辻義人氏、ウラジオストクに留学経験のある同大4年生・山保直之さんが、12月1日(土)～9日(日)に渡航。4日(火)にサンクトペテルブルグ国立大学で同セミナーを実施するほか、サンクトペテルブルグ映画テレビ大学や同テレビ局を訪問し、番組収録も予定している。



今回のセミナーは、主に学生が対象で、将来日本を訪問したい人・ビジネスや観光に興味のある人などに、日本文化の魅力をロシア語でプレゼンテーションし、札幌・小樽・函館について、映像と共に魅力を紹介。旅先で使える日本語会話レッスンやお茶とお菓子を振る舞うお茶会、日本に興味のある留学希望学生への相談会等を予定している。

同大・国際ジャーナリズム学部を2011(平成23)年に卒業している高橋代表は、13年間海外で過ごし、2014(平成26)年に帰国。ダンサー・バレエ教師、英語・ロシア語講師、ダンス&エクササイズインストラクター、モデル、ロシア語通訳など、小樽を拠点に幅広く活動。今年3月には、国際文化交流イベント「ロシアバレエ&歌とダンスの祭典」を行い、ロシアと日本の友好に力を注いでいる。

今年8月末、北海道とサンクトペテルブルグは、観光や医療・教育など、広範囲な分野で交流を強化することを確認し合い、本格的な交流がスタート。

高橋代表は、「日露関係及び、サンクトペテルブルグと北海道の架け橋となる人材育成の一助になれば」と意気込み、「母校の同大で、日本の観光セミナーを行えることを、とても誇らしく思う。歴代のロシア大統領の母校でもあり、歴史ある大学で、日本をPRできることは喜ばしい。最大限の努力で北海道をPRをし、日本をさらに好きになってもらえるよう、メンバーと一緒に力を合わせた。日本に来たいと思う学生が増え、日本語に興味を持ってもらいたい」と話した。

11月27日には、最終打合せを行い、紹介する内容や流れを確認した。

◎[日露経済協力・人的交流に資する人材育成プラットフォーム](#)

◎[高橋匠美 OFFICIAL WEBSITE](#)

◎[関連記事](#)

## 小樽駅前地区再開発 まちづくりシンポ開催 (2018/12/02)

[Tweet](#)

小樽駅前地区の再開発を考える「まちづくりシンポジウム・小樽駅前地区に市民は何を求めめるのか」が、12月1日(土)、小樽経済センター(稲穂2)で開催された。主催は小樽駅前第1ビル周辺地区再開発準備組合(浅村公二理事長)。

当初、定員100名の予定だったが150名が集まり、会場を4階から7階の大ホールに変更するなど、駅前再開発に対する市民の強い関心が伺われた。

最初に、まちづくり福井株式会社岩崎正夫代表取締役が、「再開発事業における行政と民間の役割」と題して基調講演を行った。



同社は、2000(平成12)年に福井市や福井商工会議所等が出資して設立した第3セクターで、TMO(タウンマネジメント機関)として活動しており、JR福井駅周辺の中心市街地活性化のための各種事業を行っている。

岩崎氏は、2023年の北陸新幹線福井開通に向け、都市開発など新たな投資が増えて来ている一方で、古い建物を活用するリノベーションも行われるなど、それぞれの考えで進むまちづくりの現状を紹介した上で、地域の関係者による将来像の共有や、行政と民間の信頼関係の構築が大切なことなどを話した。

また、小樽商科大学生による「駅前地区の整備イメージ」と「魅力向上に必要な機能」に関する市民アンケート調査が報告された。

高齢層の多くが、駅前整備イメージを「小樽の玄関口としてふさわしい風格を備え、市民が誇らしく感じられるエリア」と回答したのに対し、若年層では「買い物や娯楽を楽しむための施設やサービスが充実したエリア」と回答するなど、年代により抱くイメージが異なった。



魅力向上の機能では、「ゆっくりと過ごせるレストランや飲食店」「バスターミナル施設」「駐車場」「公園や広場などのオープンスペース」といった項目を選ぶ回答が多かったことが示された。

最後に、岩崎氏に、大津晶商大准教授、平松正人商工会議所副会頭、浅村理事長が加わり、フリーディスカッションが行われた。

大津氏は、現在、都市計画マスタープランの策定作業が行われていることに触れながら、小樽市全体の街づくりが最初にあって、駅前エリアをどうするかマクロな視点で考える必要を指摘し、「市民にも当事者意識を持って関わってほしい」と話した。

平松氏は、「小樽経済をどこに軸足を置かかで、駅前再開発はスタートする。再開発事業は時間がかかるので、新幹線新駅との関係なども考えると、少し焦りを感じている。オール小樽の議論の場が早急に必要」とした。

浅村氏は、「小樽駅前には市民全てのもの。住んでいる人が駅前で人と会いたいと思える街づくりをしたい」と話した。

小樽駅前再開発は、1970(昭和45)年に「都市再開発法」による日本で最初の市街地再開発事業として行われ、小樽駅前広場をはじめ駅前第1・第2・第3ビルが建築された。

その後、2009(平成21)年に第3ビルが再々開発で取り壊され、ホテル・商業施設・マンションの複合施設が新築された。

昨年10月には、小樽駅前第1ビル周辺地区再開発準備組合が発足し、第1ビルの耐震化や駅前広場の歩車混合の安全対策などに対応した、再開発事業の研究・議論が進められている。



# 小樽駅前の将来像は

## 再開発準備組合がシンポ



小樽駅前の将来像について考えたシンポジウム

# 樽商大生アンケート結果公表

小樽駅前第一ビルの地権者らでつくる周辺地区再開発準備組合(浅村公二理事長)は1日、JR小樽駅前の将来について考える「まちづくりシンポジウム」を小樽経済センターで開いた。市民ら約150人が参加し、基調講演や市民アンケート分析、パネル討論を通して、よりよい未来像を探った。

(渡辺佐保子)

JR福井駅前で2016年に開業した再開発ビル「ハピリン」の運営や福井市の中心市街地にぎわいづくりに携わる「まちづくり福井」の岩崎正夫社長が基調講演。「ハピリンの集客を周辺の商店街に流すため、中心部の道路を使ってのパーベキューなど、さまざまな仕掛けづくりをしている」と解説し、「街は常に変化していかなければ人は郊外など他に流れてしまう。変化への柔軟な対応が重要」と強調した。

続いて、小樽商大の大津晶准教授のゼミが小樽市民を対象に行ったアンケートを基に、JR小樽駅前に市民が求めていることを分析。「市民は自家用車での利用に不便を感じており、交通整備を重視している」